

2023年度 下川口小 校内研修

1、研究主題

主体的に学び合い高め合う児童をめざして
～確かな学力を育む複式授業の研究（算数科の授業を通して）～

2、主題設定の理由

本校は校区が広く、下川口・貝ノ川・宗呂・坂井・有永各地区から明るく元気な16名の子ども達が登校している。自然豊かな環境の中で、「子どもは地域の宝」と地域の人々から大切にされ、全校児童が仲良く協力して日々の学校生活を送っている。

児童らは、子ども民生委員活動や体験活動、地域と連携した様々な教育活動の中で、思いやりの心や互いに認め合い助け合いながら生活する力を身につけてきている。掃除や作業、委員会活動、児童会活動等にも前向きに取り組むことができる。少人数の集団の中で、自分の意見や考え方をしっかりと言葉にして発表したり説明したりすることもできるようになってきているので、声の大きさや内容について更に高めていく必要がある。コミュニケーション能力や自己表現力の育成にも課題があったが、少しずつ改善が見られている。

本校は、完全複式校であり、「複式授業のスタンダード」の定着やその確立を目指した校内研修を下記の内容で推進してきた。

○「学習リーダー」を活用した複式授業を日常的に行い、全校で方向性を統一する。（学習リーダーの育成・学習進行カードの提示と活用、「ひとり学び」「とも学び」の充実、同時進行での時間配分の工夫等）

○本校の「複式授業のスタンダード」や目指す「とも学び」のあり方について、児童にも明確に指導し、複式学習における学習規律の定着を全学級で図る。

○物事を論理的に表現する態度を身につけさせ考えを練り合える「とも学び」を行わせるために、友だちの意見や考えに対して自分の考えを説明する場面を多く設定し（話す・聞く・表現力・コミュニケーション能力の育成）「友だちと何をどのように学ぶのか」という視点で児童が思考していく過程を大切にする。

○全学級で複式公開授業（1学期）、算数科複式研究授業（2学期）を実施し、講師招聘を行って学級担任の複式授業力の向上を図る。「コミュニティスクール」の方々や地域の方にも参観していただくなどして、学校の取組を知らせていく。

○児童の学力や定着状況には学年差や個人差が見られるので、活用力の定着をめざして複式授業の工夫改善に努め、確かな学力の向上を図っていく。（対話的深い学びへの取り組み）

これまでの取組の中で、全児童が、複式授業の展開や学習リーダーとしての活動にも慣れ、主体的に学習に向かおうとする姿が見られる等の成果があった。「めあて」や「まとめ」を、学習リーダーを中心とした話し合いの中で考え表現したり、「とも学び」で

は、お互いの考えに対して意見を言い合ったりするなど交流することで、対話的深い学びへとつながり、主体的・協働的に学ぶ力ののびが見られた。本校の「複式授業のスタンダード」の学習規律に関しては定着してきている。更に、写真やイラスト図の場面を見て、自分たちで問いを見だし、問題を作ることにも取り組み始めた。また、複式の利点を生かした学習形態として、同領域の単元を両学年で揃えて学び合う授業作りの取組みも進めている。課題を揃えると、上学年は下学年の内容を見ることで学び直しが、下学年は上学年の学習を見て学びの見通しをもつことができる。本校は今後も完全複式校であり、さらに複式授業の充実と学力向上に努めていかなければならない。

そこで、引き続き学習リーダーを活用した複式授業における効果的な指導法についての研究を行い、複式授業改善と充実に取り組むことで、主体的に学びともに認め合い高まり合う確かな学力を持った子どもを育成することとし、校内研修のテーマを、引き続き、

主体的に学び合い高め合う児童をめざして ～確かな学力を育む複式授業の研究（算数科の授業を通して）～

と設定し、チーム下川口小学校で複式授業研究と指導法の改善・向上に取り組んでいく。教科は、算数科を中心とし、言語活動の充実を図り学習リーダーを活用する授業の教科を他教科にも広げ、活用力及び思考力・判断力・表現力の向上を目指す。

そして、新学習指導要領の趣旨を受け、今求められている学力を児童が身につけていけるよう、「主体的・対話的で深い学び」のある、小規模・複式校ならではの複式授業の学習過程や指導法の研究を推進していく。

目的は、授業スタイルの統一ではない。何のために、何を目指して、何ができるようになるか、この取組を行うための意思統一が、「チーム下川口小学校」として大切である。

また、学校教育目標に示されている「かしこく・ゆたかに・たくましく」を目指して、防災教育・人権教育・道徳教育・キャリア教育・特別支援教育の充実を図り、命を大切にす意識と行動力の育成及び児童の自己肯定感を高めることを全教育活動の中で大切にしていきたい。

3、研究仮説

○「学習リーダー」を育成し、「主体的・対話的で深い学び」を目指した複式授業の学習過程の工夫と学び方の定着を図ることで、児童に主体的・協働的に学ぶ態度と確かな学力が身につくのではないか。

○言語活動を活発に行う複式授業を展開することで、児童の活用力及び思考力・判断力・表現力等やコミュニケーション能力・学力が高まるのではないか。

○防災教育・人権教育・道徳教育・キャリア教育・特別支援教育を充実させることで、児童の知・徳・体のバランスの取れた成長が図れるのではないか。

4、研究の重点課題

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した「複式授業のスタンダード」を確立し、学習リーダーを育成して児童が主体的・協働的に学びに向かう態度と確かな学力を育てる。
- (2) 言語活動を活発に行わせ、活用力及び思考力・判断力・表現力等を育てる。そのための課題の内容や提示の仕方等学習過程の工夫を行う。
- (3) 命を大切にす意識と行動力を育てる。思いやりのある豊かな心を育み、仲間意識、集団力を育てる。

5、研究方法(具体的な取り組み)

(1) 複式授業の研究

- ①「学習リーダーの育成」
 - ・間接指導時の「ひとり学び」「とも学び」を充実させる。
- ②少人数・複式学級における主体的学習規律の確立。
 - ・間接指導を工夫し、「ひとり学び」「とも学び」を主体的に関わり合いながら深められる子どもの育成。
- ③複式授業の学習規律の徹底と学習過程の工夫。
 - ・1時間の学習の見通しを児童に持たせるための「学習進行カード」の効果的な提示と確実な活用。
 - ・めあてとまとめのリンク。
 - ・とも学び(話し合い活動)での、対話的深い学びができるように、子どもの考えを引き出すための言葉(誤答やどうしてそうなるのか、この時はどうなるなど)や、カードなどを用意して授業に臨む。
 - ・練習問題・振り返りの時間確保による学習内容の確実な定着。
 - ・児童の主体的学習活動が可能になるための事前の板書計画及び児童による板書・黒板活用の奨励。
 - ・活用力育成のための課題の精選・提示の仕方や振り返りについての工夫。
 - ・絵や写真の場面、図などから問題文を作る授業を仕組む。
- ④全学級が研究テーマにそった複式公開授業を行う。
 - ・指導方法の研究、授業改善、全校取組の実践交流を通して学級担任の複式授業力及び資質の向上を図る。
 - ・研究授業では、事前の指導案検討の時間と事後の授業検討会を持ち、立案→提案→授業研究→見直し→成果と課題→次回授業研へという過程を取りながら全員で複式授業改善に取り組んでいく。
 - ・公開授業・研究授業ともに算数科で行う。
- ⑤全校的な学びの「ノートづくり」の指導(マークの統一)の継続。
- ⑥年2回複式授業についての検証を行う。

⑦積極的な講師招聘による校内研修の充実。(年3回)

(2) 基礎学力の定着と学力の向上

- ・児童の実態把握と学力定着度の分析。(毎月の職員会、学力検査結果の分析と活用)
- ・つまずきの明確化と個に応じた加力・個別指導。
- ・毎日の掃除後(水除く)に帯タイムを設定。
基礎学力の定着に向けて清掃後の10分間実施。学期末に成果と課題を確認し内容を見直し。
内容・国語(月・木)・・・漢字や言語事項等
・算数(火・金)・・・計算や記述式問題等
- ・家庭学習の定着と充実。自主学習や家庭読書の奨励。
ベストノート賞審査の実施と、参観日に合わせたノート展示(各家庭への啓発と学校の取組発信)。
- ・新聞活用や読書指導の充実を図り、確かな学力と豊かな感性を育てる。
- ・朝読書の時間を持ち主体的に読書に取り組む子どもにする。
(火・水の朝運動の後の10分間、木はボランティアや図書委員会の読み聞かせ月1回後は、読書)

(3) 豊かな表現力の育成

- ・「学び合い」の充実。図や言葉で、自分の考えを友だちに伝える力。
- ・記述式問題に対応できる、説明的文章力の育成。
- ・読書朝礼、読書指導の充実、家庭読書奨励。家庭読書(親子読書)の実施。
(読書の到達目標の設定「チョモランマ読書」8848ページ、学年必読図書20冊、読書記録カードの記入、木曜日読み聞かせ朝会：図書委員会及びボランティア)
- ・集会、発表活動の充実・発表朝礼の実施(別紙)、発表会の実施。
・・・(平和参観日・学習発表会等)
- ・全ての教育活動の中での人と関わる力の育成(コミュニケーション能力・社会性を身につける)。

(4) 豊かな心育と仲間づくり

～子どもたちが心から楽しいと思える学校、笑顔あふれる学校に向けて～

◎学校全体の取組・・・

①集会活動・学校行事を通して・・・児童会・各委員会

- ・学期に一回の児童活動、毎週水曜日の全校レク等

②掃除班(なかよし班)の活動を通して

- ・日々の縦割り班の関わりとして掃除活動があり、月毎の反省を児童朝礼の中で班長から評価される。頑張ったことに対して全校の前で評価され、認め合える場とする。
- ・4月の手つなぎ遠足と3月のお別れ遠足の他に、後期の新しい縦割り班に

なった時に、「芋焼き遠足」を実施する。

- ・給食の配膳も2週間のサイクルで縦割り班で担当し、テーブルも縦割り班でまとまって食べることで、交流と食育の推進を図る。

③児童の実態報告の場をその都度設け、全員で共通理解する。

④特別支援教育の視点で、児童の「困り感」に寄り添える学校へ。

- ・スクールカウンセラー（SC）と連携し児童の学校生活を支援していく。
- ・学期毎に全児童がSCとの面談を行う。
- ・SC来校時（月1回）、校内支援委員会の場を持つ。

◎学級での取組・・・

①各学級の総合や生活科での取組の中で地域との連携を深める。

②学校行事の中で仕組んでいく・・・運動会、遠足等。

③週1回の月曜日の児童朝礼の中で、各学級から、関わってもらってうれしかった人や、頑張っていた人を見つけて発表（自尊感情・仲間の良さを再認識）。

④各種アンケートの実施と分析・・・（個を大切にした取り組み）

- ・QU、生活・道徳アンケート

(5) 命を大切にす意識と行動力を育てる

①防災教育の継続・充実・地域との連携

②人権教育・道徳教育・特別支援教育・キャリア教育の充実

(6) 保・小・中、家庭・地域との連携

・学校通信、学級通信の活用

・保小・小小・小中連携、コミュニティスクール

・各教科、行事における地域の方との交流

(子ども民生委員活動・各地区サロン訪問・ヘルスマイト等)

・地域の教育力・人材の積極的活用（昔遊び等）